

## 1 研究趣旨

国の国土形成計画の全国計画・広域地方計画の見直しや「まち・ひと・しごと創生本部」の総合戦略等に基づく関西独自の素案づくりなどに向けた議論に広く活用できるよう、関西圏域の展望研究会を設置。

災害に強い国土形成の観点を踏まえつつ、東京一極集中、人口の地域的偏在を食い止め、関西の各地域が個性や資源を活かし、主体的に取り組むしくみのあり方、住人目線で、心の豊かさを実感できる関西のあり方などを研究の視点に、政策コンセプト等をまとめる。

## 2 研究体制（別紙参照）

ひょうご震災記念 21 世紀研究機構の五百旗頭真理事長を座長に、地域づくりからインフラに至るまで幅広い分野の学識経験者や実践家などに参画いただく研究会を設置。

## 3 開催結果及び今後のスケジュール

### (1) 開催結果

#### ①第 1 回研究会（平成 26 年 10 月 22 日）

目指すべき関西の将来像、関西圏域を取り巻く課題について、連合長も交え意見交換が行われた後、五百旗頭座長から、関西の復権に特効薬はない。一つ一つの課題解決を講じるとともに、それらを活かす全体の制度設計が必要との発言があった。

（主な意見）

##### ○国土の双眼構造について

- ・ 対東京ではなく、直接海外とコミュニケーションするグローバルな戦略が必要。
- ・ 新幹線の整備格差に注目すべき。北陸・山陰・四国新幹線の実現なくして、関西の地盤沈下を阻止することはできない。

##### ○地方分散の受け皿について

- ・ 徳島県神山町のように多自然地域で先進事例が出ているが、これらは都市部にも影響を与える動きでむしろ都市部は多自然地域から学ぶ時代がきている。
- ・ 若者の田園回帰志向が加速し新しい働き方を試行し移住している。社会的な課題に対するコミュニティでの解決に価値観を置く若者が存在感を高めている。

#### ②第 2 回研究会（平成 26 年 12 月 21 日）

政策コンセプトの方向性について、意見交換が行われた後、五百旗頭座長から、とりまとめにあたっては、総花ではなく、目玉を打ち出さないといけない。関西の蓄積を土台に、国の施策を有効活用できるよう案をつくっていくとの発言があった。

小委員会の設置を決定し、これまでの意見をもとに、関西全体の政策コンセプトについて議論を深めることを五百旗頭座長が確認した。

（主な意見）

##### ○地域構造について

- ・ 人の流れをつくることが重要。そのためには芸術・文化の持つ力は大きい。
- ・ 産業と生活を切り離さない職住の連携が新しい付加価値を生み出す。

##### ○少子化・男女共同参画について

- ・ 少子化対策に頑張っている中小企業にスポットを当て、若者の雇用の場とするような地域戦略を描くことが重要。

### ○産業・観光について

- ・ 関西はものづくりを支えてきた地域だが、硬直性も産んでいる。これを解きほぐし、グローバルな視野で見直すことが必要。
- ・ 経済は6割前後の一般の人の消費で回っている。この人たちの所得や仕事、産業をどう守るのが極めて重要。
- ・ 観光は関西のストロングポイント。観光立国を牽引するインパクトのある提案が必要。

### ○インフラについて

- ・ 新幹線の充実の議論なくして関西の浮上はありえない。中央政府との連携に加え、広域連携、財源調達方法、新駅と最寄り駅を結ぶちょっとした投資が重要。

### ○人材・大学連携について

- ・ 関西の各大学の連携が重要。これにより海外からの人材をよびこめる。
- ・ 地方創生に必要な人材を養成し、地域の質を上げる。インセンティブが必要。

## ③第1回小委員会（平成27年1月9日）

---

研究会での議論をもとに導き出された研究課題ごとに、政策コンセプトや研究会ならではのアイデア等について、意見交換を行った。

### （主な意見）

#### ○地域構造について

- ・ 都市、地方問わず、人の流れをどうつくるのかが地方創生のポイント。二地域居住は柱で、住居地と地方を行き交うことで多様に関われることが重要。

#### ○少子化・男女共同参画について

- ・ 関西企業が柔軟な働き方の実現に取り組みれば一つの魅力。このような働き方を可能とするソフトな政策が重要。

#### ○産業・観光について

- ・ 従来の産業型ではなく、外資系企業の誘致に特化するなど、個性的、オンリーワンのものを特区として打ち出していくべき。
- ・ 人に着目した小さなビジネスの集積が重要。これを支える金融の役割が重要。
- ・ 最高裁判所や会計検査院等、独立した機関を関西に誘致するのも面白い。

## (2) 今後のスケジュール

### ＜平成26年度＞

- ・ 平成27年2月 第2回小委員会（予定）  
議題：政策コンセプト素案について
- ・ 平成27年3月 第3回研究会（予定）  
議題：中間とりまとめ等

### ＜平成27年度＞

必要に応じ設置する部会において広域地方計画等を見据えた基本戦略を検討し、夏頃を目処に最終取りまとめ

(敬称略、五十音順)

区分	氏名	主な役職
座長	五百旗頭 真	公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構理事長
座長代理	大西 裕 ◎	神戸大学大学院法学研究科教授
	河田 惠昭	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター長
委員	渥美 由喜	株式会社東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長
	猪子 寿之	チームラボ株式会社代表取締役
	植田 和弘	京都大学大学院経済学研究科教授
	梅原 利之	四国旅客鉄道株式会社相談役 公益財団法人堺市文化振興財団理事長
	大南 信也 ○	特定非営利活動法人グリーンバレー理事長
	加藤 恵正 ○	兵庫県立大学政策科学研究所教授
	北村 裕明	滋賀大学理事・副学長
	木村 陽子	公益財団法人日本都市センター参与
	坂上 英彦	京都嵯峨芸術大学芸術学部デザイン学科教授
	佐々木 雅幸	同志社大学経済学部特別客員教授 文化庁文化芸術創造都市振興室長
	白石 真澄 ○	関西大学政策創造学部教授
	砂原 庸介 ○	大阪大学大学院法学研究科准教授
	平山 洋介	神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授
	藤井 聡	京都大学大学院工学研究科教授
	松永 桂子 ○	大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授
山崎 亮	株式会社 studio-L 代表取締役	

※ (小委員会委員長◎、小委員会委員○)

(敬称略、五十音順)

区分	氏名	主な役職
参与	飯尾 潤	政策研究大学院大学教授
	御厨 貴	東京大学名誉教授